



さん さん
燦 燦

佐世保市立清水中学校
 学校だより22号
 令和4年12月 2日
 校長 榑尾 吉嗣

学校教育目標：「明るく、自ら求めて伸びる生徒の育成」
 校訓：凜と在れ 生徒会スローガン：「全力」

師走に入りました

時の過ぎるのは本当に早いもので、あっという間に12月に入りました。12月は旧暦の12月を表す「師走」とも呼ばれ、諸説あるものの、非常に慌ただしく、忙しい月として我々の中にイメージされています。1年の締めくくりとして、何かと忙しい毎日だからこそ落ち着いて、しっかり地に足をつけて毎日を過ごす必要があります。



暖かかった11月から月が変わった途端、朝晩の冷え込みも厳しく一気に冬の到来を実感します。日中の窓際はポカポカで気持ちよく感じるものの、陽が暮れていくと気温も一気に下がっていきます。つい背中も丸まり首をすくめて歩きたくなりますが、北門に立っていると、しっかりと挨拶しながら前を通過する皆さんばかりです。さらにレベルアップを目指すならば、ポケットに手を入れたまま挨拶をしている人は、その瞬間は手を出して挨拶をしましょう。会釈だけで終わっている人は、今度は少しだけ声にしてみましょう。それだけでお互いの心の距離がもっと近くなりますし、一日のスタートがこれまで以上に気持ちよく切れると思います。

今年も残すところ1か月、学校に登校するのも来週の月曜日から数えてあと15日です。“**終わり良ければすべて良し**”ではありませんが、令和4年の残りもわずかだからこそ、今年一年を今一度振り返り、良かったこと、できるようになったことはそれが『**自身の実力**』になるように続けていきましょう！。逆に改善が必要なこと、まだまだ足りないことは謙虚に受け止めて、もっと努力してみたり、取り組み方を工夫したりしながら『**自身の実力**』の引き出しを増やしていきたいものです。

現在の清水中はいろいろなことへの頑張りや、取組が実践できてきているがゆえに、求めるもの、目指すところのレベルはさらに上がってきます。**「これくらいいいさ」**と妥協することは簡単です。でもその時点で成長はストップしてしまいます。さらに自身のレベルアップを図ったり、気持ちよく過ごしやすい学校にしていくためには、**「これでどうだ！」**と胸を張って言い切る取組が求められます。



今学校で行っている多くのことは、中学校生活だけのために行っていることはほとんどありません。長い人生を歩いていく皆さんの将来が、キラキラして充実したものになっていく準備や訓練が、今この時期からすでに始まっているのです。

さまざまな場面で活躍の姿が見られます

普段の学校生活や学校行事等での頑張りや、その都度お知らせしておりますが、部活動やその他の活動においてもたくさん活躍する場面を目にします。

第8回佐世保俳句大会において、2年生の北村絢斗さんが『**夏の空青が広がるグラウンド**』の作品で**佐世保市長賞**に選ばれました。(12/2の長崎新聞に掲載されています)

また、令和4年度 長崎県中学校空手道競技新人大会において、空手道部が男子団体組手で**2位**という好成績を収めました。これまでも、そしてこれからも多くの皆さんがさまざまな場面において頑張り、活躍の姿を見せてくれたり好成績を収めてくれたりすると思いますが、本人たちの喜びや自信をつけることはもちろんのこと、身近な仲間の頑張りや活躍は、周りの人たちにも勇気ややる気を与えてくれます。



仲間の頑張りを見て、「よし！次は自分も」と意気に感じる人が増えてくれたら、こんなに嬉しいことはありません。

↑写真は男子団体形の様子です

「常に準備は怠るな。チャンスはいずれ、訪れる。」

エイブラハム・リンカーン (第16代アメリカ合衆国大統領)

鮮明な画像等は、ホームページをご覧ください。